

公 表

第57回技能五輪全国大会「配管」職種

持参工具等一覧表（参考）に関する注意事項

- 持参工具・接合材料等は、課題製作に必要なもので、適正かつ安全なものとする。
- 持参工具等一覧表は参考とし、適切な工具を選択して使用することも競技の一環とする。
- 競技下見日の工具展開終了後は、新たな工具類は持ち込めない（充電式ドライバの電池を除く）。
- 持参工具の中で、型取りや採寸等の事前加工した治具、及び競技材料と混同し易い材料の持ち込みは不可とする。そのため競技中に行わなければならない加工を事前に行っている治具は、競技下見日に競技委員による協議にて判断する。
- (1) トーチランプは、安全のためガス用に限定し、ガスカートリッジは4本以内とする。また、着火は1台のみとする。
- (2) アセチレン、酸素、LPGのボンベは、持ち込めない。
- (3) パイプ万力の脚部安定用の金具等は、使用しても良い。但し、競技場所の床への直接固定は出来ない。
- (4) 電動工具類は、充電式ドライバのみとし、他は使用出来ない。また、充電式ドライバの会場での充電は、出来ない。
- (5) 治具、型板及び原寸図は、競技時間中に作成すること。
- (6) 塩ビ管接着剤は、無色透明のものとする。
- (7) シールテープと液状シール材との併用は出来ない。
- (8) 水圧テスト器（手動式）は、公開水圧審査時に使用するので必ず持参すること。仕様は15G Vへの接続用継手を含み、ゲージの最高目盛りは2.5MPa以下とし、圧力計の径は75φ以上とする。
- (9) 水容器を持参してもよいが、指定された競技者枠内で使用すること。
- (10) 会場には「耐火レンガ」「バケツ」「合板（原寸図作成用）：約910mm×910mm×4mm」の準備がある。

(参考)

事例 1 認められない工具棚の事例



支給材料と同じ材料を工具棚として使用している。
工具棚として使用している。

事例 2 認められない治具の事例



R 部を加工しやすいように事前に型板を加工している。

区分	品 名	
工 具 類	ハ マ	木づち、金づち、プラスチック
	や す り	銅管用、銅管用
	面 取 り 器	塩ビ管用、銅管用、銅管用
	の こ	ビニルのこ、銅管用金切りのこ（弓のこ）
	銅 管 カ ッ タ	
	塩 ビ 管 カ ッ タ	
	は さ み	型板作成用
	ト ー チ ラ ン ブ	
	サ イ ジ ン グ ツ ー ル	銅管用
	レ ン チ 類	モンキレンチ、ラチェットレンチ（立てバンド取付け用）、モータレンチ、スパナ
	プ ラ イ ヤ	
	ナ イ フ	
	パ イ プ 万 力	
	手 動 式 パ イ プ ね じ 切 り 器	J I S 管用テーパねじ用（カセット型も可）、S G P 15 A ～ 20 A 用
	手 動 式 パ イ プ ベ ン ダ ー	
	パ イ プ レ ン チ	
	立 水 栓 取 付 レ ン チ	
	油 さ し	
	ド ラ イ バ	
	き り	
	銅 管 用 研 磨 プ ラ シ	サンドペーパー・内外両面ブラシ
	工 具 棚	
接 合 材 料	銅 管 用 は ん だ	
	フ ラ ッ ク ス	銅管はんだ用
	塩 ビ 管 接 着 剤	塩ビ管接続用
	シ ー ル テ ー プ	シールテープと液状シール材との併用はできない。
	液 状 シ ー ル 材	
測 定 具 他	墨 つ ぼ	チョーク墨も含む。
	定 規	直・曲尺、巻尺、折り尺、ノギス等
	製 図 用 具	
	ス コ ヤ	
	V プ ロ ッ ク	
	水 平 器 ・ 勾 配 器	
	水 圧 テ ス ト 器 （ 手 動 式 ）	
そ の 他	砂	
	亜 鉛 鉄 板	型板作成用（その他の材質も可）
	筆 記 用 具	原寸図作成用
	石 筆 ・ チ ョ ー ク	
	着 火 用 ラ イ タ ー 等	
	霧 吹 き	
	防 炎 シ ー ト	壁取り付け接合時養生用
	小 ほ う き	ちりとり共
	木 栓 及 ビ キ ャ ッ プ	銅管砂曲げ用
	ウ エ ス	